

---

 資 料
 

---

## 講演要旨：あるがまま（自己受容）で生きるコミュニティの創造

——福岡人間関係研究会の活動から学んできたこと——

村山正治\*

### I 「社会適応社会」から「自己実現社会」への転換

- ①人類の大転換期に生きている私たち  
1960年代のパラダイムシフト→エンカウ  
ンタームーブメント、人間性心理学の誕生  
(1962)
- ②現代の特徴 経済面では新自由主義の繁栄と  
限界（貧富格差拡大）、地球環境の消滅危機  
人新世時代
- ③「社会適応」から「自己実現」へと転換して  
行く時代
- ④心理学的には、親しんできたロジャーズが新  
しいコンセプトを提出している。自己理解と  
関係論

### II なぜロジャーズが静かな革命家と呼ばれているか

7点を強調したい

- ①カウンセリングの問題解決の主役はクライエ  
ントである。（専門家中心からの大転換）
- ②当事者の視点：自分自身の個人的心理的世界  
が理解出来るのはその人自身だけである。  
（個人尊重）（人格理論の第1命題）
- ③カウンセリングの目的は問題解決ではなく、  
自己肯定感の育成である。（米国心理学会会  
長講演 1947）
- ④人間は実現傾向という建設的な力を持っている。  
（仮説）

- ⑤実現傾向を解放出来るのは、ある特質を持っ  
た態度である。（建設的人格変化の必要充分  
条件仮説）
- ⑥流派を越えた効果要因の探求（Asay and  
Lambert の円グラフ）
- ⑦EGを活用して世界平和促進に活躍（1986  
ノーベル平和賞候補）

### III 福岡人間関係研究会（FJK）の活動とその社会的意義

—あるがまま（自己受容）で生きているコ  
ミュニティの創造—

- ①大学紛争を媒介にして生まれたコミュニティ  
（1968年に設立）  
理念；1、自分自身も含めて、ひとり一人の意  
見が尊重され、活かされるような組織や社会  
の創造  
2、ひとり一人が自分の今を、可能性を生きる  
ことの出来るような組織や社会の創造  
3、カウンセリングのような学問は専門家だけ  
が所有するものではなく草の根運動として市  
民と共に実践する。
- ②メンバー構成と活動  
メンバー；資格なしで参加OK（教師、医師、  
新聞記者、ソーシャル・ワーカー、銀行員、  
主婦、土木関係、など  
ジェネラル・エンカウンターグループ、4泊5  
日、40年間実施、月例会「ごによごによ」、  
エンカウンター通信発行 400号

---

\*東亜大学大学院 総合学術研究科

### ③FJK の EG 体験から生まれている人間像 (10点)

- 1、ファシリテーターから守られ、見捨てられない安心感
- 2、楽に呼吸が出来る場である
- 3、参加者ひとり一人が自分の好いところを発見し、自己肯定感が育つ
- 4、自分と異なる考えの人や生き方をする人と接して、そのままを受容することの難しさを学ぶ
- 5、「ネバナラナイ」(べき) から距離をとることを学び、このままでよいと自己受容
- 6、どうにもならない現実と付き合うヒントを得る
- 7、解答がなくても歩いて行けることを学んだ
- 8、もう少し迷ってみようと、焦らないで、ちょっと余裕ができた
- 9、他人を頼ってもよい、自分の弱みを人に見せても、ここでは安心できる。批判されない
- 10、苦しみながらも何か生まれるのを待つことが出来るようになってきている

## IV 現代社会における新しい人間像の意義

戦前 滅私奉公 (国家のためにすべてを犠牲にする)

戦後 滅公奉私 (利己主義)

新しい在り方

- ・あるがままの自分を大切に
- ・弱点にこだわらなくなる
- ・他人に援助を求めることが出来る
- ・自分のよさで人生を創造できる
- ・変化プロセスを大切に

## V 新しいコミュニティの形成に向けて

- ①EG, PCAG, によるコミュニティの形成
- ②PCAGIP の展開 — 全国的ネットワーク形成

③対等なネットワークモデルで、相互に発展する

④新しい科学論、関係論の形成、(オープンダイアログなど)

## VI 自己実現とは何か

①私も含めてひとり一人がオンリーワンの存在である。私たちはそれぞれ、私という誰にも出来ない経験をしている。ひとり一人が異なった存在である。

②そのオンリーワンを自覚するには、他人との出会いが必要である。特にあるがままの自分を受け止めてくれる人との出会いが大切である。その一つは私にはエンカウンター・グループの場である。

③自己受容出来ると、自分のことも尊敬できる。他者信頼が生まれることにつながる。

④人生の旅とは自分自身になること、②③の経験を変化しながらくり返し体験するプロセスそのものである。私の内的世界もたえず変化しているプロセスである。

⑤ネットワークで社会を変える

## 文献

村山正治 (1993) エンカウンター・グループとコミュニティ ナカニシヤ出版

村山尚子 (2010) 福岡人間関係研究会のコミュニティ エンカウンター通信 400号記念特集

村山正治 (2014) ロジャーズをめぐる 金剛出版

村山正治 (2015) 福岡人間関係研究会・パーソンセンタード・コミュニティの創設・展開・活動から学んだこと 伊藤直文(編) 村山正治・平木典子・村瀬嘉代子「心理臨床講義」講師 金剛出版

村山正治 (2021) スクールカウンセリングの新しいパラダイム 遠見書房

## (注)

1、本稿は関西フォーカシング研究会主催の招待講演要旨である。村山正治、池見陽、対談の中のパート I、村山正治の講演要旨である。

2、いずれ記録を作成するが今回は要旨のみである。